

会議所としてのゲスト挨拶

ご紹介に預かった平田です。本日の日伯医療協力プロジェクトにご招待頂き感謝を申し上げます。それにゲストとして挨拶させて頂けるのは甚だ光栄であります。

少しだけ、当所のメディカル分科会の活動について、お話をさせて頂きたいと思います。

今から約5年前、当所の貿易部会所属の新進気鋭の企業、FUJIFILM様の他12社に加えサンパウロ総領事館およびJETRO様の参加で2013年10月3日にキックオフした。今現在は、丁度倍増し26社の会員企業に加えオブザーバーとして総領事館やJETROの他、大使館、JICA様またサンタクルース病院も参加頂いています。

当会議所には12委員会と11部会があるが、これ等の委員会・部会の活動領域を超え、ビジネス環境改善のために、真の政策対話を活発に、継続的に活動されているのが、このメディカル分科会だけであります。

メディカル分科会がこれほどまでに活発に活動している動機や背景および活動実績等を、主要な活動をピックアップしてみました。

- ① 2013年10月3日、分科会創設メンバー13人の志とも言える、キックオフ宣言ですが、3項目については敢えて読み上げさせて頂きたい。
 - 1) 日本の技術を生かして、医療現場のニーズにこたえる医療機器の開発・実証を推進、開発した機器の商品化と国際展開を推進するため、医療機器と技術が一体となった海外展開を推進する。
 - 2) メディカル分科会の目的は医療関連企業がブラジルでビジネスを展開する上で困っている点を取り上げ、商工会議所の組織として日本政府・政府機関と共に問題解決に向けた活動を行い、ブラジル国民の健康維持・向上に貢献する。
 - 3) 日系企業及び関係省庁との協力下、官民一体となった交流を促進、具体的には日本発の高品質の医薬品・医療機器等の輸出を拡大することを念頭に、日本の規制・基準等の理解度向上に向けて、新興国や途上国を中心とした国・地域の規制などについて対話を通じて、日本の承認許可制度の理解を促して、国レベルでの信頼関係の構築・強化を図る。

次に

- ② 同年10月25日に開催したこの日伯間（METI/MDIC）のハイレベル協議を貿易投資促進産業協力合同委員会と称するが貿投委と略している。）でテーマとして採りあげて貰った事です。
- ③ 2014年8月2日に安倍総理が来聖、日本・ブラジルビジネスフォーラム（～信頼の100年から繁栄と創造の100年へ～）が開催された時に、安倍総理自ら「日・ブラジル医療分野規制に関するセミナー」に参加されて薬事規制分野での協力を表明された事があります。
安倍総理自身が、「潰瘍性（かいようせい）大腸炎」と呼ばれる難病を抱えていた実体験談を語られた。「薬事手続きの承認の早期化は非常に大切であり、数年前に新薬が承

認められたために難病を克服して再度総理に就任した私は一貫して規制緩和を掲げてきており、今後一貫して新薬審査の短縮を図る」、今回のブラジル訪問を機に、医療・保健分野における協力関係に同意したことを踏まえ、日系病院などへの支援を通してブラジルの医療・保健サービスの充実に支援していくと強調されました。

- ④ 2015年11月27日、日本経済新聞社とブラジル日本商工会議所が外交関係樹立120年記念セミナー「日伯医療連携の未来～最新技術を拓く健康社会」を300名の参加者で盛大に開催しましたが、以上の主な点が活発な活動のモメンタムになっております。セミナーの際には、メディカル分科会メンバー各社から発表がなされたが、富士フィルムブラジル社からは、ブラジル医療業界への貢献としてがん早期発見プロジェクトとして直腸がん検診、死亡率の低下や医療コストの削減、低線量レントゲン撮影機器、マモグラフィ、エンドスコーピー、画像診断装置やシステム、ブラジリア連保直轄地ガマ地区のパイロット試験、サンパウロ大学病院のがんクリーニング協会設立、FUJIFILM SYNAPSE(PACS)を擁したJICAとの共同プロジェクトなどについて発表されました。

以上、私の脳裏に鮮明に記憶されていますが、FUJIFILM様から招待状と伴に頂戴したご案内によると、画像通信/保存/管理ソフトウェア(PACS)を媒体として、サンパウロ大学病院、サンタクルース病院、アマゾニア病院の3病院を結び、それぞれの放射線科医が実際の症例に対する診断について「遠隔診断」行うプロジェクトが2017年の6月から毎月開催され、本日の18回目を最後に終了されるとの事です。

先に述べました外交関係樹立120年記念セミナーに於いて、ブラジルで最も権威あるシリオ・レバネンス病院のゴンサロ・ベシーナ・ネットCEOは、ブラジルの医療システムについて次のように語っておられたのを記憶しています。

1988年の憲法改正で、1990年に統一医療保健システム(Sistema Unico de Saude(SUS))が発足、無償での医療サービスを受けられる事を謳っていたにも関わらず、10年以上が経過しても一行に進まず、今や破たん状態となり民間医療サービス加入を余儀なくされている窮状を訴えられました。

地域的な格差、医療教育の問題、医療施設、医師の絶対数、治療する医療から予防する医療、家庭保健プログラム、コミュニティ・ヘルスワーカー・プログラムなどについて、同氏は元ANVISA長官として又実務者として嘆きのスピーチをされましたが、まさに御社の遠隔診断技術やビジネス・モデルがヒントとなり、可成りの部分が解決されるのではと固く信じています。

今後のFUJIFILM様の益々のご活躍・ご健闘を祈り私の挨拶とさせていただきます。

以上